

## 研究の紹介

### 南西諸島での周年グラス体系向きソルガムおよび イタリアンライグラスの耐病性品種育成

#### 【研究の背景】

気候が温暖な九州では、冬期にイタリアンライグラス、夏期にトウモロコシやソルガム、飼料イネを組み合わせた栽培体系があります。イタリアンライグラスとソルガムを組み合わせた周年グラス体系(図1)は、播種から収穫まで多くの作業機械を共用できる長所があります。

一方、南西諸島では、暖地型牧草を利用した畜産が盛んですが、これらの牧草は冬期の生産量が低く、長大型飼料作物に比べて単位面積当たりの乾物収量の低さが問題です。そこで、南西諸島でもイタリアンライグラスとソルガムによる周年グラス体系を利用できるように品種開発を行っています。

#### 【研究の内容】

品種開発での重要なポイントは、ソルガムでは収穫期が台風と重ならず、収穫用機械を共用できる草型であること、冬期に栽培するイタリアンライグラスでは冬期に多収であることです。

九州や南西諸島では、温暖化の影響でイタリアンライグラスのいもち病が増加し九州で9月播種の栽培が皆無になり、ソルガムでも紫斑点病などの葉に発生する病害が多くなっています。このため、イタリアンライグラスではいもち病抵抗性(写真1)、ソ

ルガムでは紫斑点病抵抗性(写真2)を重視して選抜しています。現在、沖縄県と九州各県の研究機関や生産者の協力で有望系統の特性を評価するとともに、ソルガムとイタリアンライグラスの新系統を組み合わせた周年グラス体系の実証栽培試験を行っています。

#### 【今後の取り組み】

今後、実証栽培試験の結果からソルガムとイタリアンライグラスの周年グラス体系の栽培マニュアルを作成する予定です。有望系統についても品種登録を目指しています。また、ソルガムとイタリアンライグラスとの周年グラス体系以外にも暖地型永年草地でイタリアンライグラスの追播栽培や他作物(葉たばこ、きく等)の収穫後(春~夏)にソルガムを栽培する方法も検討する予定です。

飼料作物は、地域や農家により播種時期や利用方法が多様にあります。利用場面等についてご要望などがある方は、今後の取り組みの参考にしたいので是非ご一報下さい。また、有望系統については、平成29年度の品種登録を目指すとともに普及のための試作用の種子増殖も行っています。

【畜産草地研究領域 高井 智之】

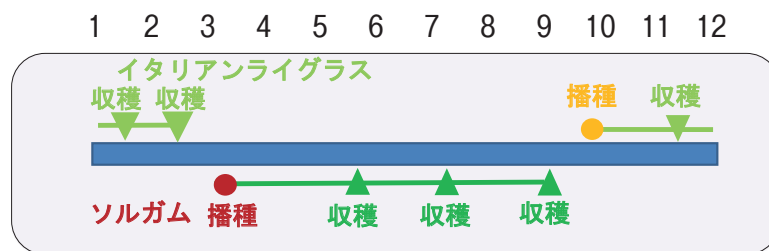


図1 ソルガムとイタリアンライグラスによる南西諸島での周年グラス体系

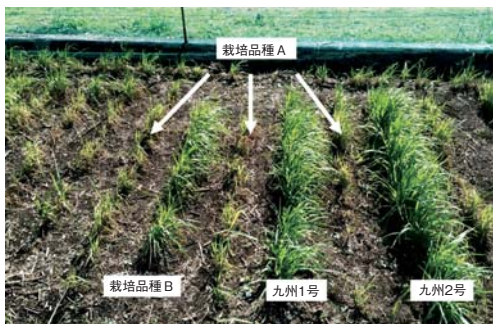


写真1 圃場でのイタリアンライグラスのいもち病検定の様子

開発中の「九州1号」「九州2号」は、いずれもいもち病抵抗性があります。



写真2 ソルガムでの紫斑点病接種による発病程度開発中の「11KO-2」は紫斑点病に抵抗性があります。